

購入型クラウドファンディング発の新事業

◆CES2024家電部門で最優秀賞を受賞した持ち運べる電子レンジ「WILLCOOK」

繊維製品製造販売会社WILLTEX（ウィルテックス）が開発した「WILLCOOK」が、2024年1月に米国ラスベガスで開催された世界最大の技術見本市「CES」の家電部門で最優秀賞を受賞し、国内外から注目を集めている。「WILLCOOK」は、同社が「持ち運べる電子レンジ」と銘打つように、電子レンジのような機能を備えたバッグで、バッグに使われているのは、電気を流すことで布が発熱する

CES2024最優秀賞受賞のWILLCOOK(左)と最新作(右)

ペットボトルをおいしい温度で!

50℃ 2時間



出所: WILLTEXのプレスリリースより

特許技術だ。24年6月から一般発売予定の最新作「WILLCOOK PACKABLE」（税込み価格29,500円）は、約10分で温度を100度まで上げられ、レトルト食品であれば約20分で温められる。肌着のように伸び縮みする伸縮電線を使用することで、通常の布と同じ柔軟性や軽量性を持ちながら、素早く均一な温かさを実現することができ、市販のモバイルバッテリーでの充電も可能にした。

◆クラウドファンディングを起点に注目される新製品

「WILLCOOK」シリーズ第1弾は、22年にクラウドファンディングサイト「Makuake」での先行販売から始まった。応援購入総額は、目標とする30万円を大きく上回る約1,100万円を集めた。他にもクラウドファンディングを起点に最近注目されている商品に、空気清浄機などの開発・販売を手掛けるカドーのふとん乾燥機「FOEHN（フェーン）001」（税込み価格24,200円）がある。従来のふとん乾燥機とは違い、独自の送風技術により使用や収納に手間がかからず、ふとんに差し込めば一瞬で風船が膨らむほどの高い風圧で

世界最小級のふとん乾燥機「FOEHN001」



出所: カドーのプレスリリースより

温風を送り込む。軽量なスティック形状で、オゾンを搭載し、臭いの除去やダニ対策もできる。同商品も、23年9月にMakuakeで予約販売を開始し、応援購入総額1億5,800万円超の支援を得た。

◆小規模販売の機会を提供する購入型クラウドファンディング

クラウドファンディング（以下CFと略す）は、インターネットを通じて自らのプロジェクトや目標を発信し、賛同者から資金を募る仕組みで、大きくは投資型、寄付型、購入型の3つに分類される。最近とくに伸びているのが「購入型CF」だ。購入型CFは、プラットフォーム運営事業者を介して、プロジェクト実行者が、モノやサービスや体験などの「リターン」を出資者に提供する。

「WILLCOOK」や「FOEHN（フェーン）001」のような新製品は、画期的な素材や技術が使われていても、前例がない製品なだけに需要予測が難しい。なるべくリスクを小さくしたい企業にとって、購入型CFは小規模販売の機会となり、注目度が高ければメディアに取り上げられ、認知度も高まる。

一方、支援者側は、まだ一般発売していない商品などを先行して購入することができ、割引価格で購入できることも多い。またプロジェクト実行者の開発への思いやこだわりを具体的に知ることもできる。

◆大企業も購入型CFをテストマーケティングとして活用

購入型CFを活用しているのはスタートアップや中小企業だけでなく、最近では大企業もマーケティングツールとして活用し始めている。とくに量産化前のテストマーケティングとして活用する企業が増えている。アスリート向けのスポーツ用品を開発するミズノは、競技向けの高反発ソール素材「ミズノエナジーコア」を、日常生活向けに初めて搭載したシューズ「ザ ミズノエナジー ウルトラライト」を開発した。有志社員による社内スタートアッププロジェクトによる開発で、商品コンセプトや価格が顧客にどの程度支持されるかを試すために、22年7月、2,000足限定でMakuakeでの先行販売を行った。当初2ヵ月で売る予定が2週間で完売し、購入者は想定よりも若い年齢層だったこともわかった。

また伊藤園は、もっと気軽にお茶を楽しむ機会を、という思いから開発した新形態の粉末茶系飲料「PON-TO（ポンと）」シリーズの第1弾を、23年9月より購入型CFのCAMPFIREにてテストマーケティングを開始した。

企業は、斬新で前例のない新事業ほど、事業化へのゴーサインを出すことに慎重にならざるを得ない。購入型CFは、顧客の反応を得ながら修正をはかることも可能なので新事業開発のツールとして今後も広がりそうだ。 【秋元真理子】